



2025年6月25日
三井住友DSアセットマネジメント
チーフマーケットストラテジスト 市川 雅浩

市川レポート

中東情勢が緊迫化した際の日本株の動きを振り返る

- 中東情勢緊迫化で原油急騰、欧米市場で株安、長期金利上昇、為替はドル高、円安が進行。
- 日経平均は一部半導体関連の値がさ株が大きく買われ上昇、業種別はその他製品などが上昇。
- 中小型、バリュー、内需も相対的に選好、これらの動きは中東情勢の再度悪化時に参考になろう。

中東情勢緊迫化で原油急騰、欧米市場で株安、長期金利上昇、為替はドル高、円安が進行

イスラエルは6月13日にイランの核施設などを空爆、イランも報復として弾道ミサイルでイスラエルを攻撃し、中東情勢は一気に緊迫化しました。その後、23日には米軍がイランの核施設を空爆し、イランは翌24日にカタールの米軍基地を報復攻撃しましたが、トランプ米大統領は同日、イスラエルとイランが「完全かつ全面的な停戦で合意した」とSNSに投稿しました。

イスラエルとイランは6月24日、ともに停戦を受け入れる姿勢を示し、攻撃の応酬は沈静化しました。中東情勢が緊迫化した期間（6月12日から20日まで）の金融市場の動きをみると、原油価格が急騰するなか、欧米市場では主要株価指数が下落、10年国債利回りは上昇（価格は下落）しました（図表1）。為替市場では、対主要通貨での米ドルの増価と日本円の減価が顕著となり、ドル円はドル高・円安に振れました。

【図表1：主な金融市場の動き】

株価指数	変化率	国債利回りなど	変化率・幅
日経平均株価	0.60%	英国10年国債利回り	0.06%
TOPIX	-0.42%	ドイツ10年国債利回り	0.04%
ナスダック総合株価指数	-1.09%	米国10年国債利回り	0.02%
英FTSE100種総合株価指数	-1.24%	日本10年国債利回り	-0.05%
S&P500種株価指数	-1.28%	北海 Brent 先物	11.03%
ドイツ株価指数	-1.77%	WTI原油先物	10.13%
ダウ工業株30種平均	-1.77%	ドル円	2.61円/ドル

(注) データは2025年6月12日から20日。国債利回りとドル円は変化幅、北海 Brent 先物と WTI原油先物は変化率。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【図表2：国内株式市場の動き】

個別銘柄	寄与度	株価指数	変化率
アドバンテスト	406.60円	TOPIX MID 400指数	0.61%
ソフトバンクグループ	183.41円	TOPIX SMALL指数	0.11%
コナミグループ	58.54円	TOPIX 100指数	-0.88%
東京エレクトロン	-101.28円	TOPIXバリュー指数	-0.17%
ファーストリテイリング	-91.80円	TOPIXグロース指数	-0.68%
リクルートホールディングス	-45.30円	TOPIX SMALL バリュー指数	0.19%
東証33業種	変化率	TOPIX SMALL グロース指数	0.03%
その他製品	4.83%	TOPIX 500 バリュー指数	-0.20%
電気・ガス業	4.31%	TOPIX 500 グロース指数	-0.74%
鉱業	2.67%	日経平均内需株50指数	1.03%
医薬品	-4.13%	日経平均外需株50指数	-0.24%
鉄鋼	-3.74%		
空運業	-2.44%		

(注) データは2025年6月12日から20日。個別銘柄はプラス寄与度とマイナス寄与度の大きい上位3銘柄。東証33業種は上昇率と下落率の大きい上位3業種。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



日経平均は一部半導体関連の値がさ株が大きく買われ上昇、業種別はその他製品などが上昇

国内の株式市場では、東証株価指数（TOPIX）は下落したものの、日経平均株価は上昇しました。日経平均の上昇幅は230円14銭となり、プラスの寄与度の大きい上位銘柄はアドバンテストやソフトバンクグループなどで、アドバンテストのプラスの寄与額は406円60銭でした（図表2）。マイナスの寄与度の大きい銘柄は、東京エレクトロンやファーストリテイリングなどで、東京エレクトロンのマイナスの寄与額は101円28銭でした。

このように、半導体関連銘柄が全て買われた訳ではありませんが、改めて日経平均は値がさ株の動きに強く影響を受ける様子がうかがえます。なお、東証33業種指数の動きをみると、上昇率の上位は、任天堂やバンダイナムコホールディングスなどを含む「その他製品」や、「電気・ガス業」、「鉱業」で、下落率の上位は「医薬品」、「鉄鋼」、「空運業」となっています。

中小型、バリュー、内需も相対的に選好、これらの動きは中東情勢の再度悪化時に参考になろう

スタイル別指数については、大型株（TOPIX100指数）よりも中・小型株（TOPIX MID 400指数、TOPIX SMALL指数）が選好され、バリュー株（TOPIXバリュー指数）のパフォーマンスは相対的にグロース株（TOPIXグロース指数）を上回りました。また、日経平均内需株50指数は上昇したものの、日経平均外需株は下落するなど、中東情勢緊迫化のなかで、それぞれ異なる動きが確認されました。

その後、前述の停戦合意が報じられると、6月20日から24日までの期間、原油価格は反落、欧米株は反発、米ドルは対主要通貨で売り優勢となりました。国内市場でも、売られていた銘柄や業種別指数、スタイル別指数に、一部買い戻しの傾向がみられました。今後、中東情勢が再び悪化する場面では、今回のようなドル円の動きや、景気変動の影響を受けにくい内需・ディフェンシブ、小型株の値動きが、ある程度、参考になると思われます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものであり、投資勧誘を目的として作成されたもの又は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。■当資料の内容は、当社が行う投資信託および投資顧問契約における運用指図、投資判断とは異なることがありますので、ご了解下さい。

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号

加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会